



か つ き

志布志市立香月小学校



新たな夢と学校の誇りを感じて

校長 中條 健一郎

「よーし。いけー」バトンがきれいに渡って、ゴールテープに飛び込んでいった。香月の応援席では、大きな歓声が起こった。市の陸上記録会で新記録が生まれた瞬間である。「人数も多い学校では1位になって当たり前。」



そう言われる。学校では「1位ではなく、先輩方が残した記録に挑戦する。」いつしか、それが子どもたちの目標になっていた。「すごいといわれる先輩方の背中を追う。そして

超えよう。」それは、自分たちで新しい伝統を創ろうとする子どもたちの切なる思いである。これまで、放課後になると高学年部以外の先生方も一緒に子どもたちの陸上の指導をしていた。そして、それに応えようと子どもたちの真剣な姿がいつもあった。みんなで成し遂げた誇りは、これからの自信に変わっていく。来年60周年を迎えようとする香月の校庭では、教児ともに新しい伝統を積み重ねていこうとする営みが日々行われている。

そして、新たに立ち上がった読書グループ「しおさい」の皆さんが読書タイムの朝の時間に訪れ読み聞かせを行っていただいている。



子どもたちは、お母さんの声に吸い込まれ静かに感動の時を過ごす。保護者とともに香月の歴史に新たな1ページを加えていただいた。五年生の稲作活動では、農業の専門家の方々からもみの剪定から稲刈り、脱穀まで継



続した指導をしていただいた。小さな稲がたくさんの稲穂になった。小さな学校の水田に大きな夢や感動が広がっていった。

「香月小でよかった。」保護者のひとりがそうつぶやかれた。子どもや保護者、地域の方々の熱い思いが香月の学校を支えてくれていることを実感した。



読み聞かせ会～図書委員会～



図書委員会の5・6年生が、昼休み計画的に読み聞かせ会を行っています。特に低学年は、お兄さん・お姉さんの本の読み聞かせや、パネルシアターをとっても楽しみにしています。この活動は、本の楽しさを味わう機会となり、読書意欲の向上に繋がっていくものです。



実りの秋を感じて

「わあ。いっぱいついでる！」

2年生が生活科の学習で育ててきたサツマイモの収穫をしました。



掘り方を考えながら、歓声を上げ収穫したイモは、今年の天候不良からか小ぶりでしたが、植え付けそして草取りとその成長を見守ってきた子どもたちにとって、「実りの秋」を感じる体験となりました。

たちでした。

しておりますが、今
も児童一人一人に
「命は自分で守る」
意識を高めさせて
います。